

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは4号館		
○保護者評価実施期間	令和8年2月5日		～ 令和8年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68	(回答者数) 67
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日		～ 令和8年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士をはじめ作業療法士・理学療法士・保育士・児童指導員と他職種が在籍し総合的な支援を行っている。	「言葉発達支援」の療育を特徴とする事業所運営の中で、感覚統合の観点からセラピストが「土台となる身体づくり」へのアプローチをし、保育士や児童指導員が児童同士のやり取りの練習など丁寧に個別で関わるなかで「社会性を育む」といった総合的な支援が行える様に情報共有を行い日々対応している。	・職員間の情報共有や現場での連携がしやすいよう児童の目標設定や各職種の目的化の明確化を図る。 ・日頃から情報共有の場(昼礼・終礼)で発言していく。 ・多角的な支援を行う事ができる様に担当する児童を固定せず全ての職員にて支援を行う。
2	職員を多く配置する事で児童に寄り添った支援が行える。	言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、保育士、児童指導員等経験豊富な職員を配置し、相互に連携し児童が成長できる環境を心がけている。	・充実した職員配置を活かして季節ごとの行事やイベント参加を積極的に行っていく。 ・児童の意向に沿った好きな遊びを提供しつつ、プログラムが固定化しないよう遊びの幅や社会性を広げるために多角的な視点で活動プログラムを設定し提供する事で支援の拡充を図っていきたい。
3	保護者の相談を受け、助言をしたり申し送り時に丁寧な活動報告を行っている。	対面又はメッセージアプリを活用し申し送りを行っているが、活動の状況が伝わりやすい表現や児童の成長した面を伝えるよう意識している。保護者からの質問や相談があった際は職員間で共有や話し合いをして助言を行うようにしている。	・引き続き丁寧な申し送り対応を職員一同心がけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育園や学童クラブとの交流が少ない	言葉でのコミュニケーションが苦手な児童が多い為、交流会等の行事へ参加が難しい	近隣の公園にて活動を行う際には、地域児童と交流ができる様支援を心がけている
2	「保護者会」を実施しているが「開催しているのを知らなかった」という声もあり全体周知が難しかった。また日程調整が難しいとの声が挙がった。	保護者会開催にあたって事前に玄関、受付カウンターにポスター掲示で参加者を募っていたが参加希望の保護者が自主的に申告する形式をとっていた為目に留まりにくい、参加方法のわかりにくさが全体周知に至らなかった要因と考える。また平日午前開催のため「時間曜日の調整が難しい」との意見もあった。	今後の保護者会開催にあたって、メッセージアプリの活用やプリント配布、口頭での告知をすることで周知に努める。参加が難しい保護者には勉強会資料を配布しサポートに努める。
3	施設内は清潔と感じるという意見が多かったが療育スペース外でのスペース(職員室や教材管理)が狭いと感じる声が職員、保護者から挙がった。	療育スペースは施設基準を満たしているが、在籍職員や教材が多いこともあり圧迫感がある。保護者から「スタッフ用スペースは十分なのか」、スタッフから「物が多く、所在が分かりにくい」と意見があった。	スタッフ用スペース、教材管理、整理整頓スペースの確保と環境美化に努めていきたい。